協同のひろば

1996年2月16日　厚生省前にて

黄柳野高校 HIV インフォメーション

「黄柳野高校ＨＩＶインフォメーション」は、生徒たちによって自主的につくられたサークルです。

古山　賢

はじめまして。黄柳野高校２年の古山（18歳）です。まず、わたしが活動をはじめたきっかけからお話しします。そう、あれは第１回のＨＩＶインフォメーションの新聞（ニュース）が発行された時の事です。今まで学校が配布するプリントにはあまり目を通さなかったわたしが、なんとなく手にしたプリントを見てみると、薬害について書いてありました。そして、その内容に共感し、やっとみようと思って入ったのがきっかけでした。入ってからは、暗中模索で活動をはじめましたが、やはりつまずきがありました。そんな中、数回にわたりビデオによる学習会が催されました。参加人数こそ少なかったものの、２回目、３回目と回を重ねていくうちに人数も増え、理解者が増えていくのにうれしさを覚えました。その後、京都での訴え、署名運動などの支援活動をしに行きました。初めてのことでとまどいがありましたが、メンバーのしっかりとした訴え（発表）を聞いて、緊張感、はずかしさが共に消え、自分なりに一生懸命やれて自信がつきました。メンバー全員が京都で一回り大きくなって学校に戻ると今度は、川田龍平さんの兄、川田晋さんに講演してもらおうという話がでてきました。話はとんとん拍子に進み晋さんが来校してくれるというとこまで決まってしまいました。この時、決まったはいいけれど、自分たちにＡＩＤＳについての知識があまりない事にきづき、これではいかんと思い勉強会などをやるようになりました。勉強会の他に、地元・新城地区へのビラ配り、ポスター作りなど、毎日が忙しく大変でした。しかし、不思議な事にわたしには重荷になる事はおろか、逆にすごく充実した、とても気持ちのいい毎日でした。講演当日、私が一番心配していた事がありました。それは、参加人数です。せっかく他では聞けない貴重な話をしてくれるので、多く

の人に聞いてもらいたい。多くの人に正しい知識をもってもらい薬害について知ってもらいたい。結果、一般の人がとても少なかったので残念に思いました。しかし、生徒たちが真剣に聞いている姿を見てとてもうれしく思えました。数日後、豊橋で寒い中署名運動に行きました。祭日だったので人が多く、署名運動もスムーズに進みました。署名してくれた人たちの中には応援してくれる人もいて、とても勇気づけられました。

２月14、15、16日と３日間、厚生省前座り込みがありました。最終日、私達８人で座り込みに参加しました。朝５時に着いてまず始めに思ったのは、人数が少ないという事です。午前中はビラ配りやちょっとした手伝いをしました。幸運な事に龍平さんと会う事ができました。緊張のあまり挨拶しかできませんでしたが、人間的な大きさが感じとれました。昼頃から原告の人達の話に共鳴し、怒りの感情が湧きました。夕方、菅厚相が深々と謝罪した事によって歴史が変わりました。そう、国が謝ったのです。はじめは信じられなかったけど、周囲の状況に目をみはると事実なんだなぁと実感し、みんなで喜びあいました。

４月27日に静岡の市民文化会館で川田悦子さんが講師を務める薬害エイズ学習会に参加しました。川田悦子さんは強い母親という印象がありましたが、直で話を聞いていると、一女性としての困惑した姿が感じられました。講演終了後、悦子さんと少し話をしました。その時、人をやさしく包みこむあたたかさを感じました。

最後にこの活動を通して…。薬害や他の事でも、他人の事だからではなく、自分の事として考えていく事が大切だとわたしは思います。そして、一人一人が集まって協力すれば大きな力になる。正しい事は正しいと正義を貫き通す大切さを学びました。3月29日、和解が成立しましたが、今後責任にあった賠償をすること、誰が悪いのかなどの真相解明、充分な恒久対策をとるなどして生きる保障を１日も早く解決してほしいです。また、人間が人間らしく生きていける社会にしてほしいです。その為にも、自分なりに精一杯の努力をしていきたいです。そしてＨＩＶインフォメーションに入って、人との出合いや様々なものを学び得た事に感謝し、これからも色々な活動に参加して自分を大きく成長させていきたいと思います。

辻野　智子　龍平さんにあの時会っていなかったら、薬害エイズには興味を持っていなかっただろう。そう私は、今思う。黄柳野高校に入学して、慣れ始めた頃に、私は川田龍平さんにお会いし話を聞いた。普通の講演とは違い、目の前で命にかかわることを聞いたことで、私の中に深く印象に残った。

その後、エイズに関心を持ち、雑誌に龍平さんのことが取り上げられているのを見ると、私はすごい人と会ったのだと実感した。そして、何か役に立てることはないだろうかと考えている時に、クラスメイトに誘われてこのＨＩＶインフォメーションは始まった。私にとってこの会は高校生活の新たな課題・目標となった。エイズは思ったより偏見のある病気だっ

た。中学校の頃から、エイズとは性行為・血液などで感染することは知っていたし、同性愛感染者が多いことも知っていた。しかし、「薬害エイズ」血友病患者の人たちが感染させられていたことを知ったのははじめてだった。私がこの会に入った本当の理由は、薬害エイズについての知識を広げることにもあるが、エイズに対しての偏見をなくすことにあった。

ＨＩＶインフォメーションが始まって、半年過ぎようとしているが、まだまだ、知識・勉強不足だなと感じる。２月に厚生大臣が謝罪し、続いて製薬会社が謝罪し、和解が成立した。これから私は、まだ救われない被害者の人たちを支援していきたい。そして、普通に暮らすために少しでも偏見がなくなるように、二度と薬害が起こらないようにと願いたい。

林　正典　僕がＨＩＶインフォメーションに入った理由は、友達に誘われたからです。入った当時僕は自分から入ったわけじゃなかったので、ＨＩＶとか薬害エイズとはどういうものかぜんぜんわかりませんでした。ＨＩＶインフォメーションに入って、ＨＩＶとか薬害エイズについて勉強していくにつれだんだん興味深いものとなりました。それからは京都や豊橋などに行きビラくばりや署名運動と学校内だけではなく外へでての活動もやりました。学校内では川田龍平さんのお兄さんの川田晋さんを呼んで講演会をやりました。学校外から来てくれた人もいました。来てくれた人は少数でしたがそれでも来てくれた人達は興味深く聞いてくれたのでとてもよかったです。

そして２月16日には東京へ行き厚生省前へ座りこみをしてきました。大勢の人が厚生省前で座りこみをしているのを見て「国が相手でも、悪いものは悪いと思って行動している人がこんなにもいるのか。」と思いとてもすごいことだと思いました。すごいことは続きました。なんと厚生省が原告の人達に謝罪したのです。その時僕は感動したと同時に、「国相手でも悪いことは悪いという勇気や謝罪させるための努力が大切なんだ。」と身をもってわかりました。その日は、それが夢ではないだろうかと思ってましたが次の日には新聞で大きく記事になっているのを見て夢じゃないんだと思いました。今思うと僕は友達にインフォメーションにさそわれなければこういう事に出合えなかったと思います。僕はこの友達に感謝するとともにインフォメーションのみんなと頑張っていきこの活動を一生懸命とりくんでいきたいと思います。

小川　景子　私がＨＩＶインフォメーションに入ったきっかけというのは、担任に「お前は将来役に立つかもしれないから入っとけ」という言葉でした。最初は嫌だったのに毎日のように同じことを言われ私の心に迷いがでてきました。迷っている間、川田晋さんの講演会が行われ、それを聞いてもう少し考えようと思いました。でも聞いてみて、すごくむずかしい事を知り自分にやっていかれるかすごい心配だったけど、相談に乗ってくれたスタッフや友達の言葉で入ることを決めました。

入ってすぐ東京の厚生省前に座り込みに行きました。そこではいろんな人の声を聞いてきました。怒り、悲しみ、苦しみ、原告の人達の気持ちにはなかなかなれないけれど、でもすごく伝わってきました。それに、そこで出逢った人達は、みんなきっと同じ気持ちなんだなと思ったらすごくうれしかった。東京に行ってすごく勉強になりました。ＨＩＶに入って今すごく良かったと思います。

福田　正樹　昨年の11月頃から、エイズ問題について考えようと５名で勉強会を始めました。ＨＩＶインフォメーションを始めた理由は、薬害エイズについて考えたいそして偏見をなくそうと、僕に出来ることから始めました。まず数人の人たちにいっしょに考えようよとよびかけをしました。そして、毎週勉強会をやっています。まず校内から偏見のない学校にしようと、ニュースを書いてみんなに知ってもらおうと取り組んでいます。始めはあまりニュースを見てくれなかったんですが、出して行くうちにみんなが少しずつニュースを見てくれるようになって来ました。少しずつ今、ＨＩＶインフォメーションは何をやっているのと言った声が聞こえるようになって来ました。

２月５日には、川田龍平さん（薬害によってＨＩＶに感染）のお兄さんが本校に来校して下さいました。薬害エイズの何が問題か、国や厚生省の今までと現在の状況はどうか、などお話しして下さいました。生徒のみんなはとても真剣に聞いていて、僕たちＨＩＶインフォメーションのみんなは企画してよかったなと思いました。この後、豊橋駅前で薬害エイズを厚生省に認めてもらうための署名運動をしました。そこである市民の方が、「あなたたちのこの運動は大きく世の中に影響を与えますよ」と励ましてくれました。また先日、厚生省大臣宛にに手紙を書き、「国が一日も早く誠意をもって謝罪してほしいこと。厚生大臣がそのためにがんばってほしい」とお願いしました。「薬害エイズ訴訟原告団」が国と製薬会社の責任を明らかにするため、２月14日から16日に東京の厚生省前で座りこみを行なうと情報を得て、いてもたってもいられなくなり、ＨＩＶインフォメーションの生徒11プラス３名が、自分たちも何かやりたいと掛けつけました。僕たちは、16日しか参加が出来ませんでしたが、雪のふる中いっしょけんめい大きな声をだしながら、心から謝罪してほしいと厚生省を見上げていました。その気持が伝ったかのようにその夜、厚生省は責任を認めました。その時に思ったことは、一人の力は少しだけどみんなの力が集まれば大きな運動になると思いました。

最初５人で始まったＨＩＶインフォメーション。今では11名に増えました。これからも署名運動もしてより多くの人たちに関心をもってもらいたいと思います。校内ニュースも書きつづけます。薬害エイズのシンポジウムに参加し、今の現状を考えていきたいと思います。これからも僕たちはがんばります。これを読んでいるみなさん。ぜひ一緒に考えて下さい。